

わがセンターあに人あり

星と宇宙を伝える 星空案内人



しみず ひさお
清水久雄 73歳さん
公益社団法人
戸田市シルバー
人材センター(埼玉県)

退職後三か月で暇を持て余し、戸田市SCの会員になったのは八年前のこと。同時期に、公民館が主催する「パソコン相談」などで、自分の経験が生かせるボランティアを始め、現在も続けています。

星空案内人(愛称、星のソムリエ®)になったきっかけは、亡き妻と行った三年前のニュージーランド旅行でした。現地で参加した「南十字星を見るツアー」で、今にも落ちてきそうな満天の星に息を飲みました。高校生の頃、キャンプで登った久住山(大分県)のテントから見た星空の姿と重なり、不思議な感動を覚えました。

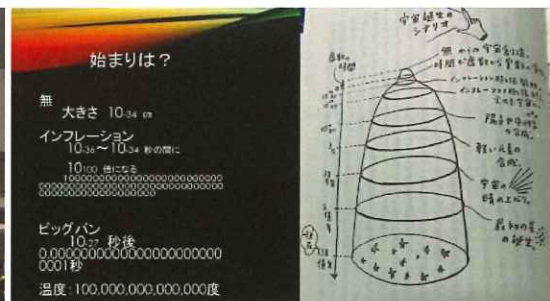
そんな折、戸田市の広報に「星空案内人養成講座」の記事を見つけ、すぐに応募。受講

する中で、宇宙の始まりや大きさなど初めて聞くことばかりで、さらに興味が広がりました。そして、星空案内人の先輩方の熱心な姿を見て、自分ももっと勉強し、子どもたちに星と宇宙のことを伝えられたらと、「星空案内人」の資格に挑戦したのです。

現在は「星空案内人」としてのメンバーとして、夏・冬休みに開催される子ども向けの「星空の観察会」などの手伝いをしています。観察会では星座早見盤を使って星座を探してもらったり、望遠鏡で惑星や月の表面を観察してもらったりしています。地球の自転で星が動いているため、望遠鏡を操作しながら目的の星を探すのは意外と難しいのですが、初めて望遠鏡をのぞいた子どもが「見えた、見えたよ」と興奮気味に話す姿を見ると、星空案内人になって良かったなと感じます。

まだ日は浅いのですが、星空や宇宙の新発見(例えば、ブラックホールやビッグバンなど)を子どもたちに伝えることで、将来の天文学者が生まれたらという夢を持っています。もちろん、それには私がさらに勉強することが求められるのですが、夢を実現できるように知識を増やしていきたいと頑張っています。

(本人執筆)



「星空の観察会」で子どもたちに解説する「星空案内人」の清水久雄さん(写真左)。写真上は、説明に用いる資料